

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

兵庫県 神河町

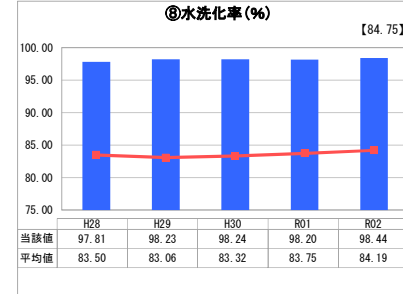
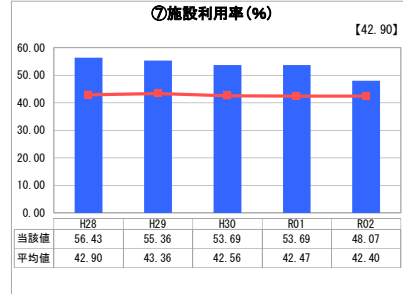
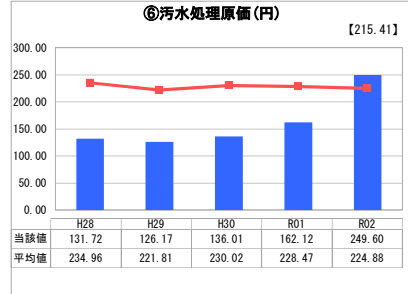
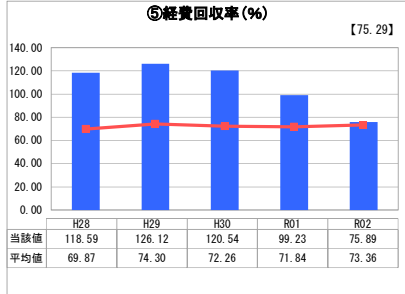
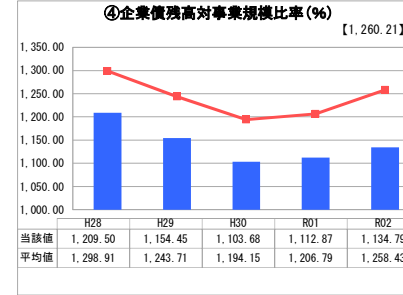
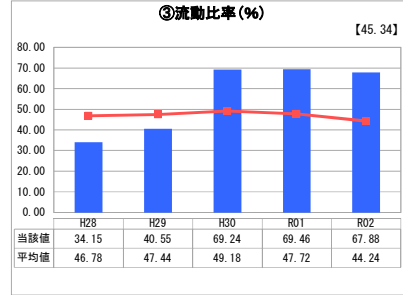
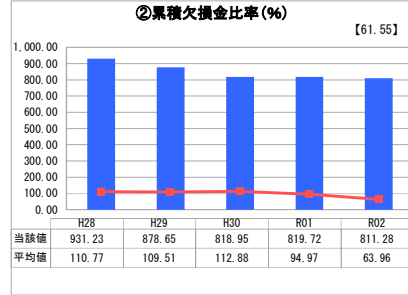
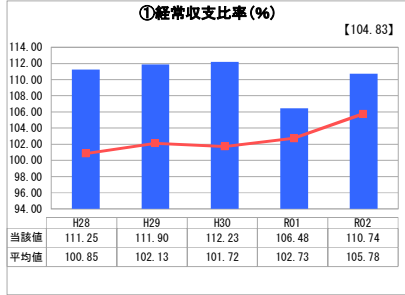
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	43.77	54.82	92.16	4,400

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,115	202.23	54.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,029	4.49	1,342.76

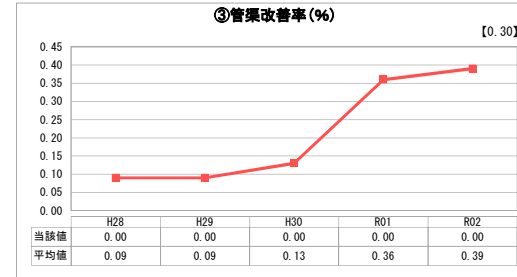
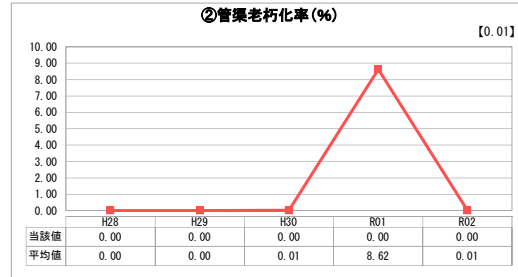
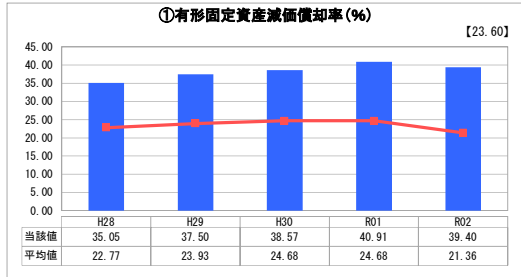
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [ ] 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超えてはいるが、人口減に伴う使用料の減と地域創生の取り組みによる新規加入金免除による収入減があり、一般会計からの繰出金に依存した運営になっている。

累積欠損金比率は、毎年純利益を出しても約10億円の欠損金を一気に解消することができず、営業収益の減に伴って悪化している。内部留保資金の運用に留意しながら引き続き累積欠損金の解消に向けて経営健全化に努めていく。

経費回収率の低下と汚水処理原価の上昇については、処理場の長寿命化工事の完了に伴う資産減耗費の計上が影響している。

### 2. 老朽化の状況について

管渠では、管路は特に問題はないが、マンホールポンプ及び中継ポンプの機械装置の修繕が多くなっている。

3ヶ所ある処理場の長寿命化工事がすべて完了し、今後農集3ヶ所、コミプラ2ヶ所を施統合する予定で、農集1ヶ所とコミプラ1ヶ所の管路接続工事に着手した。

## 全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含めて、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は98.7%と高い数字で、住民の皆様に快適な生活環境を提供している。

令和2年4月1日から下水道使用料を人頭制から従量制へと移行した。水道料金とともに県内でも高額なので値上げは難しい状況である。

下水道事業を将来にわたり継続するためには、経営の健全化・安定化が必要であり、経営戦略に基づき健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金の収納、水洗化率のアップに努めていく。また、30年後を見据えて近隣市町との広域化、共同化の検討を進めている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。